

## 令和4年北海道森づくり研究成果発表会について

企画調整部普及グループ 研究主査 中川 昌彦

道総研森林研究本部（林業試験場・林産試験場）では、森林整備や木材利用に関する研究成果、技術、活動事例をわかりやすく紹介し、本道における森づくりや木材利用に関する知識を深め、技術の向上を図ることを目的として、北海道水産林務部と連携して北海道森づくり研究成果発表会を毎年開催しております。

本年は、令和4年5月18日（水）に北海道立道民活動センター「かでの2・7」（札幌市）において開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催方法を変更し、公開期間限定（令和4年6月1日（水）から令和4年6月30日（木）まで）のWeb配信で発表課題（研究成果）を紹介することとしました。

開催方法は、口頭発表についてはYouTube動画で、ポスター発表についてはホームページで公開しました。

発表会では、一般の部として民間企業、行政機関及び国の研究機関から、口頭発表4件、ポスター発表4件の計8件、道総研森林研究本部の部では、4つのテーマ「1 森林資源の循環利用のために～林業技術～」 「2 森林資源の循環利用のために～林業試・林産試共同による林業・木材利用技術～」 「3 森林資源の循環利用のために～木材利用技術～」 「4 森の役割と森からの恵み」に沿って口頭発表10件、ポスター発表21件の計31件、全体として39件の発表を行いました。

今回、より多くの皆様にご覧いただき、研究成果の普及と新たな研究ニーズの把握に繋げることを目的として開設したYouTubeチャンネルでは、道総研森林研究本部の研究概要を示したダイジェスト版動画も加え、計15件の口頭発表課題を紹介しました。

林業試験場からは、以下の5件の口頭発表課題を紹介しました。

- 道南広域におけるカシノナガキクイムシのモニタリング結果
- 多時期衛星画像を用いた針葉樹人工林における混交率把握手法の検討
- カラマツ類の材の強度的性質に関わる遺伝的要因
- 入植者はクランベリーと出会い、どのように使いこなしてきたか？～北海道の場合、米国の場合～
- 北海道胆振東部地震の被災地における森林再生に向けた取組み

また、以下の6件のポスター発表課題も併せて紹介しました。

- クリーンラッチの挿し木繁殖に与える酸化型グルタチオンの効果
- カラマツヤツバキクイムシのモニタリング報告と令和4年度のリスク予報
- 市町村で使える！人工林の資源予測ツールの試作 –試作ツールのモニター募集します！–
- 気候変動下での河川連続性の再生：治山ダムの改良時の候補地選定手法の検討
- 治山ダム設置前後の地形・植生を効率的に把握する手法
- 海岸漂着流木の分布マップを作成する –衛星画像を活用して流木の処理優先エリアを効率よく判断–

本号では、上記全11件の課題を掲載しますので、ぜひご一読ください。